江戸時代以来の日本の成功システムが崩壊

バブルの頃の、ある意味で先を見ないような日本の明るさが、阪神大震災や一連のオウム事件で、突破口がないような閉塞感に変わっていきました。高度成長が望めなくなった時代に、別のライフスタイル、別の社会モデルが欲しいのだけれども、それが見つけられなかったのが九十年代後半でしょうか。それからずっと、日本としては、新しいモデルを見つけられず、今日まできているという感じでしょうか。

十和田市現代美術館

十和田市現代美術館

また、二百五十年続いた江戸時代の成功もあったと思います。やはり、その頃の政治の官僚主義、社会の商業主義というものが、江戸を発展させた。それはそうとう成功したのではないかと思います。江戸時代のことはわかりませんが、たぶん町人にとってみれば、政治はなにかプロがやるものというか、お上がうまくやってくれるものという感じだったのではないかと思います。その成功モデルは、二十世紀にも続いて来ているように思うのです。

いまこそ、日本の立体駐車場は世界に進出すべき

立体駐車場に関しては、世界進出したらずいぶん成功するのではないかと思います。前にスペインで、ターンテーブルを提案したら、すっごくおどろかれた。最初はあきれられたけど、敷地が都心で過密したところだったので、古いスペイン人も最後には、ターンテーブルいい案だな！となった(笑)。日本のハイテク駐車場システムはヨーロッパでは驚かれると思います。また、中国やアラブ、ブラジルといった新興国でも、日本の駐車場の精密さ、便利さは驚かれると思います。六十年代から七十年代のロンドンに、こういった、建築なのか、機械なのかわからない、実験的なデザインを絵にした「アーキグラム」という建築家集団がいるのですが、まさに、ヨーロッパでは「夢」なのです。日本では「現実」になっていることで、世界進出すれば、おもしろいと思います。

P R O F I L E

西沢 立衛 Ryue NISHIZAWA

横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授。1966年東京都生まれ。1990年横浜国立大学大学院修士課程修了、妹島和世建築設計事務所入所。1995年妹島和世と共にSANAA 設立。1997年西沢立衛建築設計事務所設立。

主な受賞に日本建築学会賞、村野藤吾賞、藝術文化勲章オフィシエ、ベルリン芸術賞*、プリツカー賞*。

主な作品に、ディオール表参道*、金沢21世紀美術館*、森山邸、House A、ニューミュージアム*、十和田市現代美術館、ROLEXラーニングセンター*、豊島美術館、軽井沢千住博美術館 等。
(*はSANAAとして妹島和世との共同設計及び受賞)

リプレース事例●CASE・1

サンプラザ35

山崎製パン創業の地、JR市川駅北口に建つ「サンプラザ35」。本格ベーカリー「ヤマザキプラザ市川」に連日多くの人が訪れる同ビルでは、昨年、併設されている機械式駐車設備・垂直循環方式「MGパーキング」のリプレースが実施されました。

最大の課題は、機械の老朽化と、多目的で訪れる多彩な車種への対応でした。車の収容高さを拡張することで、以前は対応できなかったミドルルーフ車が入庫できるようになり、加えて車重も1900kgまでの収容が可能に。リプレースならではの、新たなニーズに応える収容力を実現しました。

サンプラザ35外観

車重、車高を拡張した入庫口

サンプラザ35／MGパーキング　仕様比較表					
		全長	全幅	全高	全重量
収容車寸法	改修前	4,900mm	1,850mm	1,550mm	1,600kg
	改修後	4,850mm	1,850mm	1,720mm	1,900kg

【建築・駐車設備概要】
■建築主／山崎製パン株式会社　■機種／MGパーキング《垂直循環方式》
■型式／MGSUSRT-30　■収容台数／30台(ミドルルーフ対応)

リプレース事例●CASE・2

博多東ハニービル

「博多東ハニービル」は、JR／市営地下鉄空港線の博多駅から徒歩一分という好立地に位置するオフィス・テナントビルです。今回、日精が提案するリプレースプランを実施した背景には、ビル自体のグレードアップと同時に、今後想定されるテナントの要望に対応する狙いがありました。

最新設備へのリプレース工法により、入庫できる車の全高、全重量を拡張し、これまで中・小型車に限定されていた収納車が、中型ミドルルーフまで収納できるようになりました。また、円滑性に関しても、最遠部の時間短縮を可能にするバイバス(切り替え)機構を採用。収容台数に応じてトレー循環部を短く設定でき、テナントのニーズに応える、よりスピーディーな入出庫を実現しました。

博多東ハニービル外観

リプレースにより中型ミドルルーフ車まで収納が可能

博多東ハニービル／LEVELパーク　仕様比較表					
		全長	全幅	全高	全重量
収容車寸法	改修前	5,050mm	1,850mm	1,550mm	1,600kg
	改修後	5,050mm	1,850mm	1,550・1,800mm	1,900・2,300kg

【建築・駐車設備概要】
■建築主／ハニービル開発株式会社　■機種／LEVELパーク《水平循環方式》
■型式／NLPSGR3C-16FD-S(BP)　■収容台数／48台(ミドルルーフ対応)

集客力と稼働率の向上を実現する NISSEIリプレースプラン

入庫車のサイズアップにより、
ハイルーフ車やミニバンも収容可能に!

車重、タイヤ外幅、車高のサイズを拡張した新ユニットで、これまで入庫できなかった多彩な車種への対応を可能にし、駐車場としての収容力と稼働率を大幅に向上することができます。

弊社の専門スタッフがプロの目で総点検します。機械の耐用年数から老朽化の状況などきめ細かく点検し、設備のリプレース(入れ替え)の必要性に応じて、新たな価値を提供する駐車設備をご提案します。

お問い合わせ
日精株式会社 パーキングシステム事業部／営業本部 PS建設営業推進グループ
TEL 本社(東日本) 03-3502-9555／大阪 06-6244-9402